

びわこリハビリテーション専門職大学図書館

『ねじ子のヒミツ手技 2nd Lesson 改訂版』



森皆ねじ子著

エス・エム・エス／2013 年

ISBN 9784938936839

現役医師兼マンガ家が、たっぷりのイラストと文章で医療手技を紹介します。医療従事者だけでなく、医療を受ける側にも役立つ知識が満載！難しそう…と思わず、一度気軽に手に取ってみてください。

立命館大学図書館

『絹と明察』



三島由紀夫著

新潮社／2021 年

ISBN 9784101050522

昭和 29 年に発生した近江絹糸の労働争議を題材にした小説で、駒沢紡績の社長駒沢善次郎の家族主義的な経営手法と西欧的思想との対立が描かれています。当時の社会情勢をよく反映している物語です。滋賀県が舞台ですので、情景の描き方も楽しみながら読んでみてください。

龍谷大学図書館

『ミライの授業』



瀧本哲史著

講談社／2016 年

ISBN 9784062200172

この人たちの仕事の積み重ねが現代を創って来た。そんな過去の人々のエピソードがちりばめられた人生の戦略論。未来を創り、未来を生きる若い皆さんへの著者からの熱い想いのこもったエールです。年齢を問わずパワーがもらえます。そして輝かしい未来へ皆で繋いで行きましょう。

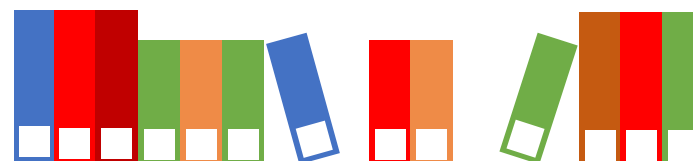
『滋賀県大学図書館のおすすめ本』 Vol.1

- 掲載の図書は必ずしも各大学で所蔵しているわけではありません。まずは所属大学の図書館でご確認ください。

発 行：滋賀県大学図書館連絡会

発行日：2022 年 3 月

滋賀県大学図書館のおすすめ本



Vol.1

滋賀県内の大学・短期大学図書館が大学生にお薦めするブックリストです。このリストを通して、新しい世界に触れてみませんか？



滋賀医科大学附属図書館

『コーヒーの科学：「おいしさ」はどこで生まれるのか』



旦部幸博著

講談社／2016 年

ISBN 9784062579568

あなたはコーヒーが好きですか？ここ数年で滋賀県内にも自家焙煎をするお店が増え、おいしいコーヒーに出会える機会がぐっと増えました。では、その「おいしさ」は一体どこからくるのでしょうか？知るともっと好きになる。科学から見たコーヒーの世界を味わってみてください。

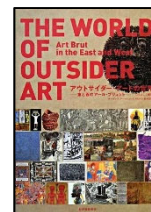
滋賀県立大学図書情報センター

『アウトサイダー・アートの世界：東と西のアール・ブリュット』

はたよしこ編著

紀伊國屋書店／2008 年

ISBN 9784314010375



アウトサイダー・アートとは、正規の美術教育を受けていない作家さんの芸術のこと。個性豊かな作家さんのユニークな作品との出会いは、固くなった心を解きほぐしてくれます。滋賀には素敵な美術館があり、たくさんの作家さんがいます。本を読んだら次はぜひ実物も見に行ってみて。

滋賀短期大学図書館

『遊びが学びに欠かせないわけ：自立した学び手を育てる』

ピーター・グレイ著、吉田新一郎訳
築地書館／2018年
ISBN 9784806715559



学校で知識を詰め込む教育だけではなく、遊びの中で自主的に学ぶことの大切さを、著者の息子の事例などを踏まえて書かれています。日本で一般的な教育とは異なる部分が多い内容ですが、多様化する社会に合わせて、今一度学校の教育だけではない学びについて考える機会になります。

滋賀大学附属図書館

『よみたい万葉集』

村田右富実監修、松岡文ほか文
西日本出版社／2015年
ISBN 9784901908948



古典、特に歌を読むと何百年も昔の人の気持ちに触れることができます。それはまるでタイムマシンのように——難しい文法の知識は必要ありません。最初から通して読まなくても大丈夫。適当にばらっと開いてみてください。さあ、1300年前にタイムスリップしてみましょう。

滋賀文教短期大学図書館

『桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか？：日本の昔話で身につく税の基本』

高橋創、井上マサキ著
ダイヤモンド社／2021年
ISBN 9784478110362



『桃太郎』や『舌切り雀』など、誰もが知っている昔話の登場人物たちが、税金問題に右往左往。『わらしべ長者』の物々交換は譲渡所得？『桃太郎』のきびだんごは経費？それとも給与？昔話を元に税金についてわかりやすく解説し、読み進めるうちに理解を深めることができる一冊。

成安造形大学附属図書館

『手塚治虫のマンガの教科書：マンガの描き方とその技法』

手塚治虫著
興陽館／2020年
ISBN 9784877232634



マンガの作り方がつめこまれた本。手塚治虫が万人向けに著した本書では、技術だけではなく、小編でも飽きずに最後まで作ること、漫画以外の教養や知識の大切さ等の心構えも説いていて、興味本位に読み進めても十分面白い。「さよう、落書きなのだ。漫画は、落書きから始まるのだ」

聖泉大学図書館

『すべての猫はセラピスト：猫はなぜ人を癒やせるのか』

眞並恭介著
講談社／2017年
ISBN 9784062201681



アニマルセラピストの飼い主に、セラピーキャットとして育てられた白いメスねこの「ヒメ」。病で苦しんでいる人も、ヒメを撫でると自然と笑顔に。そんなセラピーキャットのヒメは、老人ホームや病院などの現場でどのように働いているのでしょうか。ねこの持つ癒しの力に迫ります。

長浜バイオ大学教育・学術情報センター図書室

『不死細胞ヒーラ：ヘンリエッタ・ラックスの永遠(とわ)なる人生』

レベッカ・スクルート著、中里京子訳
講談社／2011年
ISBN 9784062162036

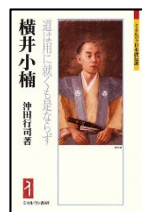


無限に増殖するヒト細胞として初めて樹立された HeLa 細胞。この細胞は医学の進歩に多大な貢献をし、今なお世界中で培養される一方で、ヘンリエッタ・ラックスについて知る者は少ない。彼女の壮絶な死とは？HeLa 細胞が生む利益の行方は？医療倫理について考えさせられる一冊である。

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部図書館

『横井小楠：道は用に就くも是ならず』

沖田行司著
ミネルヴァ書房／2021年
ISBN 9784623091317

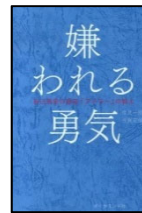


混迷する現代、今ほど生きるヒントを求められる時代はないでしょう。本書は生涯、公共とは何か、良心的に生きるとは何かを問い続け、幕末・維新の英傑に影響を与えた横井小楠の思想変遷を平易明快に語り、時代を越えて変わるもの、変えてはいけないものは何かをも語りかけてくる。

びわこ成蹊スポーツ大学図書館

『嫌われる勇気：自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見一郎、古賀史健著
ダイヤモンド社／2013年
ISBN 9784478025819



近年本学で貸出上位の人気図書。インパクトのあるタイトルに加え、青年と哲人の対話形式という読み易さもおすすめてです。難しい心理学や哲学の本ではありません。対人関係で悩んでいる人には、考え方や見方が変わるちょっとしたヒントを与えてくれる。そんな一冊です。